



かどや通信

第33号

発行日：令和元年7月吉日

発行行：かどや保存会

発行責任者：寺田 直喜／編集：廣野 克子

万葉人に思いをさせて

かどや文学講座「野の花と万葉の会」始まる

第一回のテーマは「梅花の宴」。当日はまず、約四千五百首もの和歌が収録されている万葉集の歴史的背景や編者などの概要を解説。続いて、「令和」に引用された「梅花の歌」が掲載されている万葉集第五巻の概略を説明した後、「梅花の歌」三十二首から六首を選び、歌の意味や背景などを分かりやすく紹介してくれた。

第一回「野の花と万葉の会」が六月十六日に開催され、市内はもとより、津市や明和町、志摩市等から文学好きの男女十六名が参加した。

当講座は、新元号「令和」が万葉集から引用されたことで万葉集への関心が高まり、開講の運びとなった。案内役は、古典文学に滅法強いかどやスタッフのカヨさんにお願いした。カヨさんには、平成二十九年の「古典文学最初の一步」源氏物語をちよつと紐解く「でも案内役を担当してもらったが、学生時代に万葉集を研究していたこともあり」「学生時



代に
戻っ
た気
分で、
頑張
りま
す！
と、快
く引
き受

また、万葉の雅な雰囲気味わってもらおうと、かどやでテーブルコーナーテイネートの講座も主宰するまゆみさんが毎回、野の花を会場に飾ってくれる。また、勉強の後にはお茶とお菓子も楽しんでいただく掛けになっており「分かりやすい解説で、楽しくいい時間が過ごせました」と参加者は大満足の様子だった。

縁の下の仲間たち⑨

ゴールドトリオ誕生！

「野の花と万葉の会」は、大好評のスタートをきった。これは、案内役のカヨさんの卓越した知恵と知識はもちろんだが、二人の世話人のサポートも大きな魅力になっている。

まゆみさんは生花、かどや事務員のチヨちゃんはお菓子作りと、得意分野の異なる世話人の参入で、参加者に存分に楽しんでもらえるよう、それぞれの特技を生かし、魅力的な内容作りの為の綿密な打ち合わせが繰り返行われている。

カヨさんは日々寸暇を惜しんで「コツコツ」と学術書を紐解き、資料作りに余念がない。まゆみさんは「花は野にあるように」と、草花をあるがままの姿で活かせることを「コンセプト」にしている山村御流の准教授の資格を持つっており、野の花のアレンジは得意中の得意だ。スイーツ担当のチヨちゃんも当初、抹茶のシフォンケーキと紅茶だったメニューに、「令和に因んで梅ゼリーも作ります」と、手間も厭わずおいしい提案を追加してくれた。この強力なゴールドトリオの誕生で、今後の講座への期待が増すばかり。

あなたも参加しませんか？



ゴールドトリオ。左から、チヨちゃん、カヨさん、まゆみさん。

美しく輝く作品群！

ジュエリーと写真展

かごやでは毎月、ジャンルの異なる作品を展示しており、五月は写真、六月には写真とジュエリー作品が展示された。天空を思わせる絶景や、凜とした空気が伝わる神宮の森、祈りを基調にしたジュエリー等、独特の美しさが見学者を魅了した。

《ウニ塩湖の絶景にため息》

五月は、天空の鏡と賞される南米・ボリビアのウニ塩湖の写真展が開かれた。

岐阜県養老町のアマチュア写真家・樋渡佐苗さんが二〇一七年一月に撮影したもので、朝焼けや夕焼け、星空に包まれた光景など幻想的な作品二十点が好評を博した。



標高三七〇メートルのウニ塩湖は、アンデス山脈が海底から隆起した際にできた広大な塩の大地で、雨期（十一月～三月）には雨水がたまり、晴れていると空が湖面に写し込まれ、まるで空

の中にいるような不思議な空間が広がる。

樋渡さんは三日間のツアーに参加したが、到着日の夜に雨が降り、その後は穏やかな晴天が続き撮影には絶好の条件に恵まれた。夕焼けから日の出まで刻々と変わる空の美しさに魅せられ、寝る間も惜しんでカメラに向かったという絶景の数々が参加者のため息を誘った。

《優しさ伝わる奥山理遺作展》

6月の展示は「奥山理遺作展」伊勢神宮の人と自然」だった。

奥山さんは、四十年間にわたりほぼ毎日伊勢神宮に通い、社殿はもちろん、人や自然を撮り続けた。平成二十五年に七十二年の生涯を閉じたが、かごやでは翌二十六年十月と二十七年三月に遺作展を開催した。今回は、令和時代を迎えたのを機に改めて神宮の凜としたたたずまいと、奥山さんの足跡を偲んでもらおうと、伊勢神宮の三節祭の一つ、月次祭が催される6月に企画した。今回は、最近見ることも少なくなつた神鶏や鹿をはじめ、霜が輝く早朝の宇治橋、ご遷宮のお木曳行事、宇治橋の架け替え作業、木漏れ日の中で祈りを捧げる人々や神職の方々など、二十点が展示された。



温厚で常に細やかな配慮を欠かさなかった奥山さんは、写真仲間や職場の関係者はおちろん、神職の方々からも慕われており、今

日も奥山さんゆかりの人々が多数訪れた。「随分お世話になりました。写真を通して久しぶりにお会いできたようで、嬉しかったです」など、在りし日の奥山さんの思い出を語ってくれる人も多かった。奥山さんと面識のない人も「神聖な雰囲気、伝わり、心が洗われました」と話す。写真を通して奥山さんの優しさや凜とした人柄が伝わり、好評のうちに幕を閉じた。

《祈りのアートに魅せられて》

六月には、志摩市大王町のジュエリーアーティスト・林遼子さんの「祈りの形象」と題した作品展も行われた。林さんは、中国の少数民族ミャオ族が自然を崇拜し、深い祈りをベースに二千年にわたり継承してきた銀の装飾品に魅了され、北京の民間博物館の客員研究員を務めながら、約八年間ミャオ族の村で暮らし、平成二十七年に帰国し、彼



らの伝統的な作風に独自のイメージを加えた創作活動を続けている。今回は、銀にメノウや翡翠、琥珀、真珠等をあしらったペンダントや指輪、ブレスレット等、約三十点が展示された。独創的で気品にあふれたデザインが高価な素材を一段と輝かせ、見学者を釘づけにした。

十五日には、ギャラリートークも行われ、写真でミャオ族の生活を紹介すると共に、彼らの純粹さや清らかさ等、心の豊かさについても触れ、参加者の感動を呼んだ。

心は天使、目は芸術家

林さんには、どんなことにも感動する純粹さと人への感謝を常に忘れない誠実さがあり、天真爛漫な天使を思わせた。そんな彼女だから、ミャオ族の村でも初の日本人として受け入れられ、愛されたのだと、得心した。

しかし、ギャラリートークの準備では、スクリーンの画像が多少右上がりなのを見て、寸分違わずまっすぐになるまで、何度も何度も調整を試みている。気にするほどのずれではないように思えたが、妥協を許さない美へのこだわりこそが、芸術家としての真骨頂なのだろう。見学者をとりこにした繊細で華麗な作品は、鋭い目と優しい心の産物に違いない。

オカリナや落語も加わり ジャンル広がるコンサート

かどや屋下がりコンサートは、毎月一回の開催を目標にしているが、五月は二回、六月には3回のハイペースで行われた。中でもジャズの出番が増えているが、オカリナや落語も加わり、「コンサートのジャンルは着実に広がっている。」

近ごろかどやはジャズだらけ

《プロの心意気!》

ジャズと言えばかどや最大のビッグイベントとなったプロのジャズメンによるミニライブ「新宿トラッドジャズフェスティバル・インかどや」が六月三十日午前十一時から開催された。

当ライブは、鳥羽の夏の恒例行事として定着してきた「新宿トラッドジャズフェスティバル・イン鳥羽」の前哨戦として五年前から行われている。しかし、



これまで本番会場として使われてきた鳥羽市民会館が昨年末に閉館となったため、今年は伊勢市ハートプラザみそのに場所を写し、開催時間も



午後六時から二時に変更され、ミニライブも時間を繰り上げて午前中に行われた。さらに、当日は生憎の雨で客足が危ぶまれたが、演奏者と客

席が密着しているかどやの会場は、ファンには応えられない環境で、例年同様大いに盛り上がり、朝ジャズを満喫した。

なお、新宿ジャズのメンバーは、同フェスの主催者でサクソ奏者の永谷正嗣さんが紀北町出身のため、二十七日に紀北町、二十八日が熊野市、二十九日は尾鷲市で演奏会が行われ、二十九日は尾鷲に泊り、三十日は朝食抜きで尾鷲を出発し、演奏者のうちドラマーを除く十五人がかどやに駆けつけてくれた。

到着するや、朝昼兼用の弁当を食べ、疲れも見せず、例年同様、ご機嫌な演奏で会場を沸かせてくれた。この「プロの心意気」に惜しめない拍手が贈られる中、一行は本会場へと慌ただしく出発していった。

《バラエティ豊かなかどや芸能祭》

今年のゴールデンウィークは改元に伴い十連休となり、人手が読めないことから、混乱を避けるためGW恒例のなかまちマーケットとかどや音楽祭は五月十九日に開催された。音楽祭は終日、様々なジャンルの演奏を行ってきたが、今回はプログラムに落語も加わったため、急遽「芸能祭」と名称を変更し、午前と午後の二部制で行われた。

第一部は、かどやゼンザーズのフォークソングで始まり、高校生の二見亭元信さんが落語を三席語った後は、加藤貴彦さん率いるオカリナ教室（かどやと磯部の合同チーム）の



成果発表が行われた。オカリナの合同チームは「アメージング・グレイス」と「エーデルワイス」を演奏。「エーデルワイス」ではゼンザーズが伴奏を務めた。最後は、加藤先生と



同教室の生徒（ピアノ教師）の合奏で「グリーン・スリーブス」「アヴェ・マリア」「G線上のアリア」を演奏した。オカリナの演奏を聴く機会は少ないが、澄み切った音色に大きな拍手が贈られた。

《地元ジャズメンも勢揃い》

芸能祭の第二部は、かどやではお馴染みの宮崎義明さんがジャズ仲間に声をかけ、四人のボーカリストを含む五組のバンドがそれぞれに得意の曲を披露してくれた。

また、六月八日には宮崎義明トリオがボーカルの吉田淳子さんを迎え、懐かしい映画音楽等のスタンダードナンバーを聴かせてくれた。



田淳子さんを迎え、懐かしい映画音楽等のスタンダードナンバーを聴かせてくれた。

昔の音色にうっとり

《令和初は、筆の調べへ!》

ゴールデンウィーク恒例の昼下がりにコンサートでは、今年も五月三日に生田流宮城会ことみ会の箏の演奏が行われた。今回も箏(十三弦)に十七弦箏と三味線で、「箱根八里変奏曲」など古典四曲と、誰もが口ずさめる「知床旅情」と「上を向いて歩こう」が演奏された。



箏独特のまろやかで格調高い調べが会場を包み、五月らしい爽やかな時が流れた。

《心にしみるオルガンの調べ》

オルガンの名手・大森幹子さんの「オルガン・コンサート」が六月九日に行われ、明治三十年代製作の長尾オルガンをはじめ、大正・昭和のオルガン四台を使い、世界の名曲や「ふるさと」や「仰げば尊し」等の



日本の唱歌に加え、大森さんのオルガンの師であり、「椰子の実」の作曲でも有名な大中寅二氏の前奏曲や、昨年亡くなった寅二氏の子息・大中恩氏の「リー

ドオルガンのための8つの小品」等を二人の思い出を交えながら演奏してくれた。日本人が作曲したオルガンの名曲が、会場を優しく包み、心にしみる演奏会となった。

《ときめき川柳、会員句集完成》

ときめき川柳教室は、平成二十七年五月に発足以来、斎藤たみ子さんの指導のもと、毎月第二水曜日の午後後に集まり、笑い声の絶えない活動が続いている。その成果を綴った句集が平成二十九年と三十年に発行され、このたび第三集が完成した。

講師の斎藤さんを含む会員十四名と四日市から定期的に教室に参加している賛助会員五名の力が揃う。かどやにも五十部いただいたので、希望者に配布している。



入手ご希望の方は、かどやにご連絡ください。



時間区分 部屋	午前	午後	全日	冷暖房設備 利用料
	10時~12時	13時~16時	10時~16時	
座敷南(10畳)	500円	600円	1,000円	500円
座敷北(8畳)	400円	500円	900円	—
仏間(6畳)	300円	400円	700円	—

◆◆貸部屋の案内◆◆
かどやを有効にご利用いただくとうと、一部の部屋を貸部屋として貸し出しています。茶話会や勉強会、展示会などに活用ください。詳細は、かどやへ。
電話〇五九九―二五八六八六

- ・営利目的の場合は、料金表の10割増しとなります。
- ・鳥羽市民または市内勤務者以外の利用は、料金表の5割増しとなります。
- ・許可された利用時間を超過する場合は、割増料金が発生します。
- ・冷暖房費は、全日使用の場合は2倍になります。

かどや保存会 平成31年度会員募集中!

かどや保存会は、歴史的文化財である「鳥羽大庄屋かどや」の保存ならびに効果的な活用・運営をめざして活動を行っており、当会を支援して下さる会員を募集しています。

お陰さまで平成30年度は351名の方にご登録いただき、31年度もすでに257名のご登録をいただいています。今年度も一人でも多くの方々に楽しんでいただけるよう、スタッフ一同精進してまいりますので、引き続きご登録・ご支援くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成31年度(平成31年4月1日~令和2年3月31日)の年会費(1口2,000円)は、継続・新規を問わず、以下の方法で納入してください。

- (1)手渡し：かどやにお越しいただき、直接事務局にお支払いいただく。
- (2)銀行振込：郵便局 普通 かどや保存会 00850-4-151751